

「観光」「交通」「環境」東山の課題解決

3K対策に協力金

観光客でにぎわう東山区で公衆トイレ不足や交通渋滞が社会問題化し、同区内の有名寺社や商店街などが資金を持ち寄り、課題解決に乗り出した。区内の店舗にトイレを提供してもらったり、独自に雇った交通指導員を配置したりと、解決策にアイデアをひねり出す。事業にかかわる六波羅蜜寺の川崎純性住職は「地域の課題を地域のみんなで解決したい。今後も多くの課題に対応して、観光客に魅力ある京都を感じてもらえれば」と意気込んでいる。

有名寺社や商店街

に頼んでトイレを自由に使用させてもらうことで、数を確保することにした。コンビニエンスストアやホテル、寺院など計11か所に協力のKの対策として、「東山の管理費として便器の数にに応じて約24〜50万円を支払う。店の前などに「東山出。今年は計35団体・店舗観光トイレ」と書いた垂れ幕（縦120センチ、横36センチ）が計1583万円を出し合

店舗のトイレ提供 渋滞解消に警備員

を掲げ、観光客にわかるようにしてある。

第1弾は、観光客用の公衆トイレ対策。公衆トイレは現在19か所あるが、五条坂周辺で「空白エリア」が目立ち、困った観光客が、土産物屋や民家に駆け込んで借りるケースもあったという。そこで区内の店舗や寺社

東山区の観光客用トイレに掲げられた看板

